

丹(まごころ)の里



議会だより

TAMBARING

たんばりんぐ



第2期丹波市議会スタート

目次

議会の構成	3
全議員の抱負	4
本会議報告	6
代表(7人)・一般質問(10人)が登壇、市政をたずね	8
委員会報告	14
市民の投稿 / 編集後記	16

2009.2
第17号

議長に田口勝彦議員 副議長に足立修議員を選任

構成がきまりました



住みつけたい 元気なまち丹波市へ

議長 田口 勝彦



このたび、12月5日の定例会で議員各位のご推挙により、議長、副議長に私たち2名が選出されました。

これまで市議会では、市民のみなさまの様々なご意見やご要望を受け、地域医療の充実への提言、行財政改革の取り組みなどを議論し、さらには議員定数の削減など行なってきました。

議員24名の新体制により、市民の目線で真摯な論議、生活者主権を念頭に、市民の皆様のご期待に応えられるよう「わかりやすく」「開かれた」「存在感のある」議会をめざしていきます。

ご あ い さ つ

また、行政のチェック機能、いわゆる監視機関としての役割を果たし、積極的に政策提言を行なっていくという議員の役割を再認識し、議会の活性化を図ります。

みなさまのご期待に沿うため、市民福祉の向上と市政発展の一翼を担い、山積する課題に全力で取り組んでまいります。

ぜひ、みなさまのご意見を議会にお寄せ下さい。

ご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。



副議長 足立 修

12月定例会

議会の新しい

△議長選挙

総務常任委員会

- ◎ 高橋 信二 (民)
- 瀬川 至 (政)
- 足立 一光 (無)
- 奥村 正行 (新)
- 前川 豊市 (市)
- 西本 嘉宏 (共)
- 小寺 昌樹 (民)
- 坂谷 高義 (丹)

民生常任委員会

- ◎ 荻野 拓司 (新)
- 田坂 幸恵 (公)
- 木戸 せつみ (市)
- 林 時彦 (無)
- 足立 正典 (新)
- 堀 幸一 (民)
- 大木 滝夫 (政)
- 田口 勝彦 (経)

産業建設常任委員会

- ◎ 太田喜一郎 (経)
- 山下 栄治 (新)
- 広瀬 憲一 (共)
- 藤原 悟 (公)
- 垣内 廣明 (新)
- 山本 忠利 (民)
- 足立 修 (政)
- 岸田 昇 (丹)

議会運営委員会

- ◎ 岸田 昇
- 奥村 正行
- 荻野 拓司
- 前川 豊市
- 広瀬 憲一
- 田坂 幸恵
- 高橋 信二
- 瀬川 至
- 太田喜一郎

議会広報発行特別委員会

- ◎ 藤原 悟
- 林 時彦
- 木戸 せつみ
- 垣内 廣明
- 瀬川 至
- 坂谷 高義

氷上多可衛生事務組合議員

- 西本 嘉宏
- 堀 幸一
- 高橋 信二
- 小寺 昌樹
- 瀬川 至
- 大木 滝夫

() 内は会派

- 新→新生会
- 政→政友会
- 公→公明党
- 丹→丹政クラブ
- 共→日本共産党議員団
- 無→無所属
- 民→市民クラブ
- 経→経世クラブ
- 市→市政市民の会

◎は委員長 ○は副委員長



△第2期丹波市議会議員

丹波市議会議員

全員集合！

丹（まごころ）の里

ひろ せ けん いち
広瀬 憲一



7番

(一)「市民が主人公」の安全・安心の市政づくり。
(二)くらし・福祉を充実し、特に地域医療を守り、認定こども園など教育の充実にがんばります。

丹（まごころ）の里

あ だ ち か ず み つ
足立 一光



1番

地域医療の充実、地域産業と経済の活性化、高齢者弱者への交通対策をはかり、ふる里を想い丹波市を創ります。—実行から実感へ—

丹（まごころ）の里

た さ か さ ち え
田坂 幸恵



8番

愛する丹波の発展のため、生活者の目線、女性の目線で徹して一人の声を大切にしていきたいと思います。

丹（まごころ）の里

お ぎ の ひ ろ し
荻野 拓司



2番

市政を取り巻く環境はさらに厳しい情勢です。多くの市民の皆様の手を議会に届け、「共に考え、共に行動していく」姿勢で取り組んでいきます。

丹（まごころ）の里

ふ じ わ ら さ と る
藤原 悟



9番

安心・安全のまち、魅力あるまちづくりをめざして、市民の皆様の手を真摯に耳を傾けながら、諸課題に誠心誠意取り組んでまいります。

丹（まごころ）の里

お く む ら ま さ ゆ き
奥村 正行



3番

財政基盤の安定なくして安全・安心なまちづくりはできない。情報の公開を進め、市民に公正で信頼される市政をめざします。

丹（まごころ）の里

は や し と き ひ こ
林 時彦



10番

安心して、生まれ、暮らし、老いる事ができる丹波市づくりをめざし、救急医療体制の再生に向けて若さと行動力で頑張ります。

丹（まごころ）の里

き ど
木戸せつみ



4番

愛と希望あふれる丹波市を市民と共に創っていきます。命をまもる。教育、福祉の向上。産業振興で雇用確保。道路・交通網の整備などに努めます。

丹（まごころ）の里

か き うち ひ ろ あ き
垣内 廣明



11番

周辺部の課題を一つずつ実現し、活力ある地域づくりを行なう事が丹波市の発展につながる事と考え、地域が持つ課題解決に努めます。

丹（まごころ）の里

ま え か わ と よ い ち
前川 豊市



5番

子どもとお年寄りを大切に考える社会、それが住みよい丹波市です。地域医療の確保、幼保の環境づくり、六つの地域の活性化をめざします。

丹（まごころ）の里

や ま し た え い じ
山下 栄治



12番

「皆様との対話が一番!」をモットーに、安全で安心して暮らせる「わがまち」を創造し、実現するよう取り組みます。

丹（まごころ）の里

に し も と よ し ひ ろ
西本 嘉宏



6番

合併後の様々な課題を市民の立場で解決することが、未来ある丹波市づくりの基本です。市民の声が生きる市政をめざし全力を尽くします。

丹（まごころ）の里

おおぎ たきお
大木 滝夫



19番

市の将来にとって重要な4年間となる。「市に活気、地域に元気」を活動目標に「住み続けたいと思えるまち」の実現にむけ全力を挙げる。

丹（まごころ）の里

あだち まさのり
足立 正典



13番

「皆様と共に」素晴らしい丹波市を創るため、市の様々な課題解決に向け、軸足を市民側にしっかり置き取り組みます。

丹（まごころ）の里

あだち おさむ
足立 修



20番

30年後の丹波市が、子や孫の故郷として還れるように、山と郷の再生、我がまちの持続への政策に取り組み、温かいコミュニティのまちをつくります。

丹（まごころ）の里

ほり こういち
堀 幸一



14番

安心して暮らせる丹波市実現のため、医療・福祉・教育を大切にしたまちづくりをめざして、みなさまの声を市政に反映すべく全力を尽くします。

丹（まごころ）の里

さかたに たかよし
坂谷 高義



21番

丹波市に活力をもたらす為に、人口減少と少子化に歯止めをかける、若者の定住化施策の推進を図り、ふるさと丹波創生をめざして頑張ります。

丹（まごころ）の里

たかはし しんじ
高橋 信二



15番

安全、安心の保障を第一義とする市政であらねばならない。いつも市民の目線で、地域の自発的な取り組みや施策が積極的に進められるよう努める。

丹（まごころ）の里

きしだ のぼる
岸田 昇



22番

市民と市政の『こだま』となって！
「人と自然の交流文化都市」の確立と「夢の持てる、活気あふれる丹波市」を目指し、勇猛果敢に取り組みます。

丹（まごころ）の里

こてら まさき
小寺 昌樹



16番

市民の命を守るため地域医療の確保に努めます。財政の健全化をはかり事務事業の妥当性・効率性・有効性の観点から全力で取り組みます。

丹（まごころ）の里

おおた きいちろう
太田喜一郎



23番

「安全で安心して暮らせるまちづくり」を基本として、医療の充実はもとより農林業の育成や商工業の振興を図り活力ある丹波市をめざします。

丹（まごころ）の里

やまもと ただとし
山本 忠利



17番

魅力ある丹波市づくり、産業経済の再生と地域医療の確保、若者定住、少子高齢化対策、認定こども園に対する「こども交付金」導入。

丹（まごころ）の里

たぐち かつひこ
田口 勝彦



24番

2期目のスタート「初心忘れるべからず」をモットーに、市民の目線で、丹波市の創造に向けて積極的に取り組んでまいります。

丹（まごころ）の里

せがわ いたる
瀬川 至



18番

市民の皆様とともに「こどもが夢をもて、高齢者にやさしく丹波市の自然を活かした安心・安全なまちづくり」を目指し頑張ります。

各小学校にAEDを設置！

12月定例会

丹波市二期目、初めての定例議会は12月5日に招集されました。会期中は教育委員会委員、監査委員、人権擁護委員などの人事案件の同意、11件の条例の制定、専決処分の承認、一般廃棄物処理施設建設に係る調査特別委員会、救急医療に係る調査特別委員会の2特別委員会の設置を決めた他、平成20年度丹波市一般会計補正予算、特別会計補正予算について審議し、全議案について原案のとおり可決しました。

本会議での 主な質疑

問 丹波市職員の定年等に関する条例の一部を改正する理由は何か。

答 国保青垣診療所において60歳の医師招へいの予定があり、60歳の定年を65歳へと改正するものです。

補正予算関連

問 今回の補正予算で計上されているAED（自動体外式除細動器）についての設置計画はどうか。

答 全小学校に配置する予定で、外部からも使える位置に設置します。

問 AEDの使用方法和心肺蘇生法の教育の計画

はどうなっているのか。

答 すでに講習会を142回、4,239人を実施しました。今後は、21年度早々に教職員や児童・生徒対象の講習を予定しています。自治会単位の講習会も予定しています。

問 山東救急駐在所（仮称）の整備事業計画についてどうなっているのか。

答 22年4月から運用を開始します。基本的には山東地区を10分以内、24時間体制で考えています。

山東地区のコンセンサスは18～20年度の3回の行政懇談会で得られたと考えています。

問 一般廃棄物処理施設建設にかかる予算増額はな

にか。

答 土地購入費用、補償金（農産物など）ともで約1億5千万円の増額をします。

問 環境保全対策費の備品購入費の内容は。

答 不法投棄対策用監視カメラの購入費です。

問 地域小児科医療確保対策事業負担金900万円減額理由は。

答 小児科医療体制を充実するための事業負担金を、上半期の実績並びに今後の見込み額により減額するものです。

人事案件

人事について以下の同意案件を可決しました。（敬称略）

監査委員

柏原町 柏原

谷垣 渉

青垣町 東芦田

小寺 昌樹

公平委員会委員

春日町 黒井

和田 利一

青垣町 稲土

足立 紀雄

山南町 岩屋

和田 克昭

人権擁護委員

柏原町 下小倉

谷田 恭仁子

水上町 石生

鳥内 幸代

教育委員会委員

市島町 下竹田

渡邊 秀樹

宝塚市 中洲

（現在は水上町成松）

上田 洋行

固定資産評価

審査委員会委員

柏原町 下小倉

山本 昇

次のとおり選挙管理委員会委員4名、選挙管理委員会委員補充員4名がそれぞれ当選されました。（敬称略）

選挙管理委員会委員

柏原町 柏原

春名しずゑ

山南町 谷川

角田 宗一

水上町 福田

田野 雅美

青垣町 佐治

谷垣 千年

選挙管理委員会委員補充員

市島町 上竹田

近藤 雅信

春日町 多利

高見 芳明

柏原町 柏原

西野 繁則

山南町 井原

藤井 敏弘

※たんばりんぐNo.16号の人権擁護委員の推薦で、井本健次郎氏とあるのは井本健二郎氏の誤りです。訂正してお詫び申し上げます。



△ AED（自動体外式除細動器）

丹波市一般廃棄物処理施設は「炭化方式」を導入へ

市が春日町野上野に建設を予定している一般廃棄物処理施設について、1月29日に2回目の「一般廃棄物処理施設建設に係る調査特別委員会」を開催しました。
 (財)日本環境衛生センターからの「丹波市ごみ処理方式調査検討報告書」および、特別委員会から出されていた質問に対する回答書が市当局から提出されたのを受け、さらに活発な質疑が行なわれました。
 また、市長からは「炭化方式」を導入し施設整備を進めていく方針が報告されました。

主な質疑

問 国として炭化方式が奨励されているのか。

答 ▼交付金制度の中で「ごみ固形燃料化施設」として位置づけられており、国としても奨励しています。

問 炭化処理方式とストーカ式焼却方式でコストの違いはあるのか。

答 ▼建設費も運転経費も含め、同程度と考えています。

問 炭化物の引取りが停止した場合の処理はどうなるのか。

答 ▼設計、建設、運営、炭化物の引き取り先の確保も含め一括発注として、受注者に責任を課すことを考えています。したがって、市の直接的な経費負担はありません。

担はありません。万が一、引き取りができない場合は、緊急避難的措置として、炭の生産をしない運転に切り替えます。

問 23年4月からの稼働に向け完成させることができるのか。

答 ▼現在稼働中の施設の期限も関係しますので、稼働に向けて努力します。

問 炭化物は安全か。

答 ▼火災、ごみ、塵の飛散に対しても十分に対応できます。

問 廃棄物処理施設での水の使用計画は。

答 ▼水の量は、どの処理方法でも量的に変わりません。炭化方式においても水による脱塩処理をして、脱塩後の水は全て施設内で利用するので、外部への放流はしません。



△一般廃棄物処理施設建設に係る調査特別委員会開催の様子

問 炭化物を市内の温水プールや農業用ハウスなどの燃料として利用はできるのか。

答 ▼有効な利用方法ですが、ボイラーの改良など課題も多く、現在は考えていません。

市長報告

平成18年8月25日、一般廃棄物処理施設整備計画策定委員会の答申を受け、長く時間が経過したことについてお詫び申し上げます。(財)日本環境衛生センターの報告も踏まえ、総合的に判断の結果、炭化方式により一般廃棄物処理施設建設を進めていくことを決断いたしました。資源循環型社会、低炭素社会を形成していくという丹波市の将来を見据えて取り組んでまいりたいと思います。

3月
定例会のお知らせ

議会日程(予定)

- 26日 本会議
(予算等議案提案)
- ▼2月
- 5日 本会議
(議案質疑)
- 13日 本会議
(予算以外の議案採決)
- 17日 本会議
(一般質問)
- 18日 本会議
(一般質問)
- 19日 本会議
(一般質問)
- 26日 本会議
(予算の採決)

日程につきましては、変更になる場合もありますので、詳細につきましては、ホームページなどでご確認ください。



第 31回丹波市議会定例会で代表質問には7名が、一般質問には10名の議員が登壇しました。今後の景気対策、地域医療対策の方針、ゴミ処理施設の建設、コミュニティバスの運行、子育て支援の充実など市政全般にわたり、活発な質問を展開しました。

代表質問

市政をたどす

一般質問

代表質問

緊急経済対策本部の設置を

必要に応じて対策会議などを開催

新生会

山下栄治議員

問 景気後退の影響は深刻な状況である。「緊急経済対策本部の設置」や商店の活性化のため、プレミアム付き商品券の発行を考えてはどうか。

答 ▼機動性が重要であり、必要に応じて対策会議等を開催します。また、商品券は地域内の消費を活性化させる効果が期待できますので、発行に向けた検討を進めます。

問 救急医療のあり方について、一次救急と二次救急の棲み分けをし、一次救急を受ける医療体制の確保

答 ▼現在、症状により丹波市外の病院選定もしていますが、今後、脳疾患、心疾患にかかる一定機能を県立柏原病院で確保するよう努力します。

問 認定こども園について、モデル園の検証結果をふまえ、問題点の解決策は考えているのか。

答 ▼事務の煩雑化に事務職員の配置、子育て支援に専門員の配置、障害者への対応もマンツーマンでします。今後、子どものことを第一に考え検討していきます。

立が大切ではないか。

答 ▼「かかりつけ医の受診」の啓発と、医療にかかる相談事業の充実を検討していきます。

問 二次救急は、管外の医療機関との連携で対応していくのか。

答 ▼現在、症状により丹波市外の病院選定もしていますが、今後、脳疾患、心疾患にかかる一定機能を県立柏原病院で確保するよう努力します。

問 認定こども園について、モデル園の検証結果をふまえ、問題点の解決策は考えているのか。

答 ▼事務の煩雑化に事務職員の配置、子育て支援に専門員の配置、障害者への対応もマンツーマンでします。今後、子どものことを第一に考え検討していきます。

代表質問

ドクターヘリの活用を

救急受入れ病院の要請があれば活用を

市政市民の会

前川豊市議員

問 柏原赤十字病院が4月から救急輪番に復帰するとのことだが、大変ありがたいことだ。そこで、21年度も県立柏原病院と柏原赤十字病院に対し公的支援を行なうのか。

答 ▼今年度同様、両病院に対して公的支援を行なう予定です。

問 重度の救急対応が市民にとって一番心配である。当面、県のドクターヘリを多に活用すべきでないか。

答 ▼県の防災ヘリを救急ヘリとして、これまで年間6〜8回利用しています。今後も重篤患者を受け入れられた病院の要請があれば、活用していきます。

問 市の多くの幼稚園が小学校に併置している、幼稚園児は小学生の上級生に連れられて登園している

答 ▼小学校に併置した公立幼稚園が果たしてきた役割は十分評価できますが、保護者のニーズも変化しています。「認定こども園」となっても幼稚園教育は指導要領に従って指導していきます。



△上級生に連れられて通う幼稚園児たち

代表質問

景気対策と21年度予算は

可能な限りの財源を投じて臨む

経世クラブ

太田喜一郎議員

問 百年に一度と言われ

る世界同時不況に見舞われ丹波にも影響が出ている。現在、市が発注する事業や物品購入において地元企業を優先していることは評価する。この様な取り組みや国の景気対策を21年度の予算編成において取り入れ対応されたい。

て「庁舎建設委員会（仮称）を設けて取り組む」とされています。合併特例債が発行できる期間を考慮すると時間的余裕がありません。本庁機能を集約することは、事務の合理化・効率化を図るためには必要でありますが、財政的に厳しいものがあります。今後、新庁舎検討委員会（仮称）を設置し、建設するかしないかも含め、具体的に検討します。

答 引き続き早期発注は

もちろん、景気浮揚に向けた支援策を講じます。21年度予算については、経済情勢の変化に対応した国の1次補正、2次補正の動向を見守りながら編成作業を進めています。今般の情勢に即して対応をし、可能な限りの財源を投じて臨みます。



△柏原支所庁舎裏手にある水道部

代表質問

将来を見据えた機構改革を

早急にあり方を検討していく

政友会

大木滝夫議員



△住民サービスの向上を

問 職員定数の削減を進

めていく中において住民サービスは低下させないためには簡素で効率的な行政形態に再編する必要があると考える。このたびの「こども育成」部分の教育委員会への移行後、他の部署においても市民の協力を得ながら早急に見直しを行ない、将来にわたり安定した行政組織を構築すべきと思うが。

答 職員数の見直しを行な

いながら多様なニーズに対応していくことは行政として大きな課題であり、市民のみなさんの協力なしでは克服できません。そのため、まず、自治協議会やNPOなどの育成、支所機能の充実などを推進していきます。現在、重要な改革の途中にあると認識しており、今後約一年間をかけて組織全体のあり方を検討していきます。

問 百年に一度ともいわ

れる不況の中、市内の経営、雇用状況はどうなっているか。市としてできることは何か、民間企業を解雇された方を市の臨時職員として雇用することなどを考えていくべきだ。

答 市内の状況は非常に厳しく、市として事業などの早期発注や臨時職員の採用も検討し、できる限り対応します。

代表質問

移動手段の確保を急げ

市にとってあるべき交通体系を研究している

日本共産党
議員団

西本嘉宏議員

問 周辺地域の移動手段

についてはどうか。

答 国の支援措置を活用し「市にとつてあるべき交通体系」の計画策定に向け研究しています。

問 燃えるごみ袋の料金の引き下げとごみ減量化についてはどうか。

答 事業の早期発注、物品購入も地元優先し、中小業者の資金調達の拡充策を検討します。市内で約2000人の「派遣切り」があり、今後増加する見通しです。「雇用奨励金」の、要件変更は考えていません。

問 地域医療対策につ

いてはどうか。



△安曇野市の乗り合いタクシー「あづみん」

代表質問

JR柏原駅舎のエレベーター設置

— JRへ働きかけを行なっていく

公明党

田坂幸恵議員



△ JR 柏原駅

とも約2億円を要するところなどから、整備については消極的です。市としては、整備の必要性は十分理解していますが、JRの方針によるところが大きいく、今後も利便性向上と合わせ、JRへの働きかけを行なうてまいります。

問 子育て支援の充実として①妊婦検診の無料化。②子どもに対するインフルエンザ予防接種の助成について問う。

答 ①検診は大変重要と認識しており、国や県の動向を見て検討します。

②子どもは、任意接種となっており、助成については研究します。

問 薬物の乱用防止について問う。

答 広報紙などにより、薬物の怖さを市民に周知するとともに啓発活動を強化します。

代表質問

地籍調査による課税は不適当

— 合併協定で決められています

市民クラブ

高橋信二議員

問 丹波市の地籍調査計画はどのようになっているか。

答 平地区において春日町は昭和42年度完了。氷上町の7大字は昭和49年度完了。市島地域は平成20年度に完了しました。山南地域は平成29年度完了予定。柏原地域は平成31年度完了予定。青垣地域は平成47年度完了予定。氷上地域の全部は30年後の平成50年度完了予定で

す。

問 今回調査が終了した市島地域のみ固定資産税を見直すとしているが不公平ではないか。

平ではないか。

答 合併協議会の協定により、地域ごとの調査が完了した時点で課税を見直すこととなっています。すでに調査が完了している氷上町の一部でも、地域の全部が完了したときに課税を見直します。

問 市島地域の年間増税額は2000万円。丹波市全域が完了するまでの30年間には6億円の税が課せられることとなるがそのとおりか。

答 そのとおりです。

問 市内の地籍調査完了はわずかに17%。この際市島地域の課税見直しは、固定資産評価基準の「調査後同一市内で不適当な場合は従前とあり」を適用すべきでないか。

答 不適当、不公平とは考えていません。

問 今の子どもたちには、教育の中で「食」に対する考え方を教えていかなければならない。子どもたちが、自分でお弁当を作った学校に持ってくるという食育の取り組みを実践できないか。この取り組みの狙いは、子どもたちに食料や作る人への感謝の気持ちを感じさせ、食への関心を高めることである。一家団欒の食事の大切さや食の安全性を再認識し、子どもの自主性を育てる機会になると思うがどうか。

答 春日中学校が19年度と20年度に「チャレンジ・マイ弁当」に取り組みました。全校生を対象に、自分が作ったお弁当を持ってきて食べる取り組みは生徒にも好評で、教育委員会も「自分でお弁当を作る」とこの良さについて認識を深めています。しかし、家庭事情もあることから、全

お弁当作りを通じた食育の取り組みを

— 春日中学校の実践を検証し、検討する

瀬川 至議員

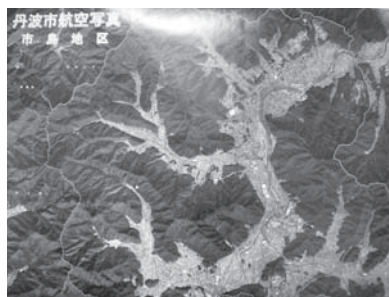


△ アイデアたっぷりのお弁当

市統一して取り組むことは今のところ推進していません。

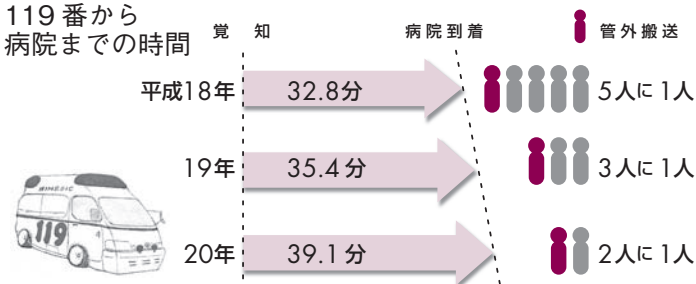
問 小学校のモデル校として1校か、2校でも取り組みはできないか。

答 春日中学校の実践などを検証していく中で検討します。モデル的にでも実際にやると親自身も良い勉強になると思います。食育を地域・家庭あげて取り組む、一つの方策としては良い方法だと思えます。



△市島地域の航空写真

119番から
病院までの時間



問 救急車の覚知から現場到着は早くなっているが、病院収容は遅くなっている。2人に1人が市外病院に搬送されているからである。

救急医療体制の確立は

可能な限りの施策を実行します

林 時彦議員

丹波市で生まれ、育ち、老いることができるための具体的な手立ては。

答▶救急自動車、救急救命士の確保に空白ができません。救急業務資源を増強します。医師確保の施策は市として可能な限りのことを実施します。

問 若者をはじめ市民の雇用確保、生活安定に向けての景気対策として市が発注する土木、建築、水道工事、また業務委託、物品購入などの事業をどのように展開するのか。

答▶地元企業の優先、事業の前倒し発注に取り組んでおります。引き続き各事業にかかる早期発注はもちろん、景気浮揚に向けた支援策を継続的に模索し、的確な策を講じてまいります。商工関係においても、制度融資や設備補助など、多様な支援策を実施してまいります。

人口減少の歯止め策は何か

それぞれ研究し人口の維持対策に努める

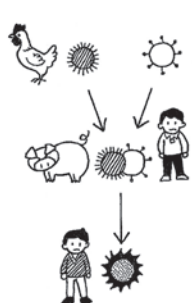
坂谷高義議員

問 市の人口は合併後4年間の間に7万人台から6万人台に減少しているが、この人口減に歯止めをかける政策とは何か。

答▶①働く女性が子どもを産み育てやすい環境をつくるため、認定こども園の整備を進め、幼保一元化を推進します。②「3チャイルド子育て支援事業」と「乳幼児医療費助成事業」を推し進めます。③企業誘致や地域起業家養成研修、関西大学と連携で空家リノベーション、また「少子化対策等民間活動支援事業」の推進を図ります。

問 元気な活力ある丹波を創生するための政策とは何か。

答▶京阪神地域をターゲットにした農林業や地場産業、自然環境や歴史文化資源を活用した交流



インフルエンザウイルスと人のインフルエンザウイルスが、人かブタの体内で混ざり合う
↓
人から人へ感染するウイルスが出現する!

△新型インフルエンザの発生のおそれ

問 新型インフルエンザの対策について問う。

答▶国は1月中旬にも「新型インフルエンザ対策行動計画」が示される予定、県も国の動向を踏まえ行動計画、実施計画を統合し年度内に新対策計画の策定を進めています。市は市の役割が明記された中で、必要な体制整備に取り組みます。

道路事業の取り組みは

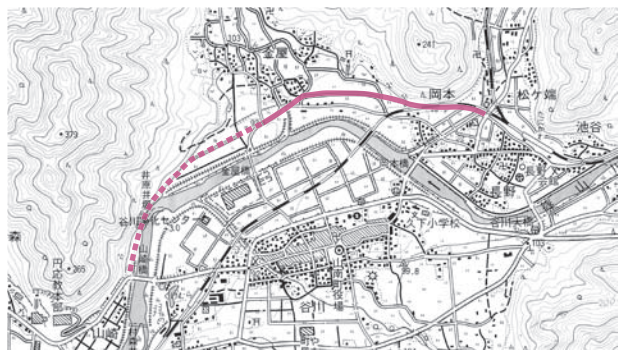
引き続き調査研究をしていきたい

垣内廣明議員

問 老朽化が著しい山崎橋の一箇所で山南地域を二分している現状を考えると災害また交通事故等が発生すれば分断が避けられない。唯一の迂回路である西脇方面の道路も一車線のため大型車の通行は厳しい所である。また、下町の交差点から久下村踏切の区間が狭隘のため、朝夕の通学通勤に非常に危険を生じており住宅などが連立し歩道の設置も非常に難しいところである。その様な状況を踏まえ、災害時また緊急時の対応、そして通学時の子どもたちを交通事故から守るためにも金屋岡本線の山崎橋までの延伸をバイパスとして考えなくてはならないと考える。既に18年度で調査費を計上され調

査も終わっている事と思うが、これまでの対応また今後の考えを問う。

答▶山南地域の重要課題として今後、国県の補助事業をあらゆる面から検討しました、内容を精査し将来の交通量を予想しながら総合的に判断する中、引き続き状況を調査研究をしていきます。



△金屋岡本線山崎橋までの延伸箇所

低炭素社会への取り組みは

削減目標を設定し、推進します

藤原 悟議員

問 農業体験学習など、食育の取り組みや給食での地元米・野菜類の使用はできているか。市の農産物を学校給食に安定的に供給できるよう、保管貯蔵施設の整備が必要ではないか。

答 11の小学校で米作り体験活動を、全ての幼稚園・小学校で農園などの実体験を行いました。給食センター納入の米は丹波市産コシヒカリが100%、地元野菜類使用率は35%です。貯蔵施設は供給を担う組織で整備するのですが、支援の方法について検討したいと考えます。

問 市のエネルギー使用状況と削減目標、取り組みは。省エネ機器などを積極的に導入してはどうか。

答 19年度におけるエネルギー使用状況を取りまとめ、削減目標を設定しま

洲本市役所 五色町庁舎

住所 兵庫県洲本市 五色町都志 203
 設備 容量 600k VA
 契約電力 197kW
 事業内容 市庁舎
 URL http://www.city.sumoto.hyogo.jp/
 取り組み内容



Hf蛍光灯の調光センサー制御、ケナフの植樹、太陽光発電、小型風力発電、氷蓄熱ユニットセントラル空調システム

△電気利用合理化で、近畿電力合理化委員会「委員長表彰」を受けた自治体

す。ソフト、ハード面の整備と啓発活動を積極的にこなしていきます。省エネ機器などの導入は、温暖化対策の有効性や財政状況などをふまえて検討していきます。

問 相談窓口や一部業務の時間外、また、休日の対応はできないか。

答 そのような対応を行っている自治体もあり、市もニーズをみながら慎重に検討してまいります。

支所機能の見直しの考えは

地域づくりの施策立案する機能を支所に

荻野拓司議員

問 市長は市政2期目の「所信表明」で、小学校区単位での「地域づくり」活動への取り組みを重視するとされている。その中で、健康、教育、環境など実に多くの課題について地域任せの姿勢でなく、市の行政支援のあり方が問われるところである。そのため、次の点をお聞きしたい。

①「支所機能の見直し」が言われてきたがその考えはどういった内容なのか。また、支所と公民館分館との統合の考えがあるのか。②中央公民館制に移行した中で、中央公民館と分館は一体的に機能しているのか。③高齢者学級の運営を見直す考えなのか。

①「支所機能の見直し」が言われてきたがその考えはどういった内容なのか。また、支所と公民館分館の統合は関係部署を含め検討してまいります。

②分館は校区単位の地域づくり事業に対する支援を重点に置くように努めます。③当面、自主的な活動や運営ができるように事務や予算面でサポートしていきたいと考えています。



△支所機能の見直しを

教育振興基本計画の推進は

審議委員会から21年度秋答申を受けます

小寺昌樹議員

問 教育振興基本計画による学習指導要領が、小学校は23年度、中学校は24年度に完全実施となる、具体的施策を問う。

答 審議委員会を設置して、教育の将来像や基本理念、方針など盛り込んだ基本構想は21年11月頃に答申を受けます。

問 子どもの携帯電話、インターネットにかかわるトラブル発生防止策は。

答 児童生徒に対する誹謗中傷によるネット上のいじめ、出会い系サイトに巻き込まれる事案も発生しています。緊急アピール文を出し、さらに適切な指導を行ないます。

問 21年度予算編成は、固定資産税の評価、産税の評価替えや、企業収益の悪



△めざすべき教育の姿

「認定こども園」の問題点は

地域と十分協議を進めたい

広瀬憲一議員



△認定こども園よしみ

問 ①保育制度の改悪と最低基準の廃止、ガイドライン化が進み安全・安心の教育が果たしてできるのか。②市の保育実施責任をなくす「直接入所方式」は保育保障を園に求めるもので問題だ。③地域社会の過疎化を進め財源のない地域は園がなくなりますます過疎化に。④「財政改革」優先の幼保三元化による大規模集約化は問題であり中規模以下にすべきだ。公立園の民営化は保育の公的責任の後退・削減となる。公的保育を守れ。⑤子育て学習セン

ターの存続を。

答 認定こども園の運営について、地域と十分な協議をして進めます。安あがり保育をしようとは思っていません。氷上東・南について児童の推移をみて協議をします。子育て学習センターはすぐに廃止はしません。

問 中学生以下を抱えた母子家庭への短期保険証は、せめて6ヶ月有効な保険証を交付すべきだ。

答 国の法改正にともない母子家庭に限らず6ヶ月短期証の交付を考えます。

問 後期高齢者医療保険料滞納者の保険証を取りあげるな。

答 状況と実情に応じて対応します。

問 中学3年生まで医療費の無料化を願う。

答 財政負担を考えると困難です。

住民自治基本条例の制定を

市民参加による研究会を立ち上げ条例素案を提言したい

足立正典議員

問 地方自治は、地域に効果的で、住民の思いに近づけることが大きな課題である。住民のための地方行政は、行政情報公開や、市民からの政策提案、情報提供により施策の実効性や妥当性を高めることにある。それを保障する市民参加・参画の仕組みを制度的に整える必要がある。

答 市民が主役の根拠となる自治基本条例の制定こそ住民のための地方行政の実現になると確信しています。市民参加も得た条例研究会を設置し様々な研究をしつつ、市の現状分析や市民の自治意識の高まりも検証し、条例素案の提言にむけ研究します。

問 非正規雇用者にとつてこれまでの職業経験が認められない現状を考えると、就職・転職の際大変不利になる。そこで、キャリア

コンサルティングを受け能力評価を公的に証明されることで就職活動において履歴書や職務経歴書の代替として利用されるジョブカード制度の普及は大変意義があると思うが。

答 今年度発足した制度であり十分普及していませんが市としても有効な制度であると認識しています。十分研究をして活用していきたいと思っています。

インフルエンザ予防接種に助成を

任意接種であるため研究します

木戸せつみ議員

問 多数の子どもたちがインフルエンザにかかっている。ワクチン接種による予防が有効だがかなりの出費となる。またヒブワクチンも認可され、助成している自治体もある。

親の責任と主治医の判断のもとワクチン接種する場合、助成できないか。さらにロタ、ノロウイルス感染症への対応は。

答 12月から累計で約160人の子どもたちがインフルエンザにかかり、3中学校、10小学校、3幼稚園が学級、学年閉鎖をしています。

インフルエンザワクチンは副作用もあり国では任意接種となっており、ヒブワクチンの助成についても今後研究していきます。

ロタ、ノロウイルス感染症については感染予防の広報をしていきます。



△丹波竜化石発見現場見学駐車場

問 世界的にも価値ある恐竜化石発掘現場には約5万6千人が訪れ、その対応を地元や関係者は積極的に行っている。

答 については「丹波竜の里計画」への市の取り組みを問う。

答 駐車場への進入路拡幅、給水工事は21年度実施します。駐車場に水洗便所の設置は、直販施設整備への財政支援とともに検討しています。

「救急医療に係る調査特別委員会」を設置

12月定例会において「救急医療に係る調査特別委員会」の設置を議員提案し、全議員賛成のもとに可決しました。

委員長に岸田昇議員、副委員長に山下栄治議員をそれぞれ選出しました。

設置の目的

市内における救急医療の検討を行ない、市民が安心して暮らせる救急医療体制や救急輪番制の充実、また地域医療の充実を願い活動している市民グループとの連携などについて、特別委員会で継続して調査研究を行なうものです。

委員の定数

議長を除く全議員 23 名

委員の任期

平成 21 年 1 月 23 日から
調査終了までの間

「一般廃棄物処理施設建設に係る調査特別委員会」を設置

12月定例会において「一般廃棄物処理施設建設に係る調査特別委員会」の設置を議員提案し、全議員賛成のもとに可決しました。

委員長に足立修議員、副委員長に奥村正行議員をそれぞれ選出しました。

設置の目的

一般廃棄物処理施設の整備は市民の関心も非常に高く、情報の共有化を図りながら、市民、当局、議会が一体となって進めていかなければならない事業です。「資源循環型社会の構築」という基本理念を前提に、一般廃棄物処理施設の安全、安心、安定をより一層確かにしていくために、特別委員会で継続して調査研究を行なうものです。

委員の定数

議長を除く全議員 23 名

委員の任期

平成 20 年 12 月 18 日から
調査終了までの間

主な条例審査

▼丹波市立青垣公園の広場の廃止について
▼丹波市立青垣福祉公園の廃止について

両施設とともに、老朽化が著しく、テニスコート、ゲートボールコート面などが年々悪化し、現在ではプレーにも支障をきたす状態です。修繕には、多額の費用を要することや、青垣地域には総合運動公園にテニスコートや屋根付き広場があり、今後多くの利用は見込めない状況であることから施設を廃止し、今後の有効活用をはかるものです。

報告事項

分掌事務の変更にともない、所管事務にかかわる事項について、担当部から報告を受けました。主な内容は次のとおりです。

▼行政組織について

福祉部こども福祉課（児童福祉係・児童保育係・家庭児童相談係）を廃止し、社会福祉課に少子対策係を設けます。新たに教育委員会にこども育成課（幼児教育係・家庭児童相談係）を設置し、認定こども園の計画的な推進および0歳から15歳までの子どもの保育、教育、子育てなどを一体的に進めるため、組織改正について説明がありました。

総務常任委員会では今後とも、幼保一元化にかかる調査を継続していくこととします。

総務常任委員会

本会議において付託を受けた「丹波市教育委員会委員の任命」他にかかわる同意案件6件、条例改正、補正予算など15議案を12月19日、1月22日開催の委員会（市長および関係者の出席を求め審査を行ない、全議案を賛成全員で可決しました）。



△現地調査を行なう総務常任委員（青垣福祉公園）

民生 常任委員会

本会議において付託を受けた「人権擁護委員の候補者の推薦」にかかわる同意案件2件、条例改正、補正予算など11議案を12月22日開催の委員会で、市長および関係者の出席を求め審査を行ない、全議案を賛成全員で可決しました。

主な条例審査

▼丹波市福祉センター 条例の一部改正

丹波市山南福祉センター「さんなん荘」の施設整備工事が完成にともない、室数が追加となりました。また、この施設は指定管理者(社会福祉協議会)による管理を行なっており、より効果的な管理運営をめざすため、本年4月から休館日を月曜日から日曜日に変更するものです。

報告事項

所管事務にかかわる事項について、担当部から報告を受けました。主な内容は次のとおりです。

▼ユニバーサル社会づくり実践モデル地区協議会について

中心市街地活性化に向けてたまちづくりが進められている柏原地域の崇広小学校区が県の「ユニバーサル社会づくり実践地区」の指定を受けました。これは、高齢者や障害のある人などを含めた全ての人が生活しやすい「ユニバーサル社会」の実現を図るものです。地域代表、有識者、県、市の職員で協議会を立ち上げ、今後は誰もが暮らしやすい「まち」をめざすための計画が作成されます。

▼重度障害者等移送サービス事業について

現行の「おでかけサポート事業」は、交通弱者を含む移

送サービスとして事業実施されてきましたが、現行の事業は道路運送法などの問題点が陸

運局などから指摘され継続が困難です。このため、福祉施策として適法かつ継続可能な事業の検討が行なわれた結果、21年度からは、住民税本人非課税の身体知的精神的により重度な移動制約者を対象として実施される予定です。

▼第4期介護保険事業計画について

第4期(21年度～23年度)の介護保険料基準額は、現行の月額3,100円からおおむね4,000円程度になる見込みです。これは、今後も高齢化が進み、要介護認定者が増加することでサービスの利用量が増えることや、小規模多機能型居宅介護や認知症高齢者グループホームの整備計画があり、その施設を利用する方が増えることなどが主な要因です。

土地改良事業の変更計画の内容(青垣地域)

内 容	変 更 前	変 更 後
農道延長	940 m	953 m (現地精査に伴う延長増)
費 用	86,026 千円	49,946 千円 (36,080 千円の減) ・事業実施精査による事業費の減 ・測量試験業務委託料の減 ・用地補償費の減

▼丹波市営土地改良事業の計画変更について

青垣地域で施行している市営土地改良事業の計画を変更するもので、土地改良法の規定により提案され、承認しました。

産業建設 常任委員会

本会議において付託を受けた6議案を、12月22日開催の委員会で午前中は現地調査を行ない、午後には市長および関係者の出席を求め審査を行ない、全議案を賛成全員で可決しました。

▼丹波市立青垣農村滞在施設棉ばたけに係る指定管理者の指定

指定管理者の団体名称
遠阪自治協議会

会長 足立 信昭

指定管理者選定の理由

「農村滞在施設棉ばたけ」は、豊かな自然、美しい農村環境の中で、広

く都市生活者などに農業や農村体験の場を提供することを目的としています。今回、遠阪自治協議会が管理運営することによって、さらに地域の交流促進や活性化が図れるなど、効果的な施設運営が見込めるため、指定管理者とするものです。



△現地調査を行なう産業建設常任委員(農村滞在施設棉ばたけ)

「おいしい丹波」を みなさんに

柏原町野菜市協議会
事務局 古倉 一郎

10月12日から13日にかけて神戸市長田区の
新長田駅前広場で、丹波らしい商品を神戸
の皆様を紹介し交流する一大イベント「長田・篠山・
丹波交流大バザール」が開催されました。

柏原町野菜市協議会では、「つちのこ」「下町あ
んじんクラブ」「厄よけ市グループ」「ふれあいグルー
プ」「上小倉野菜生産組合」の野菜直売グループ
が協議会を結成して、季節の野菜を中心に黒枝豆、
丹波栗などの特産品や、お漬け物、お餅などの販
売にも取り組み、大きなイベントなどに対応してい
ます。生産者が、自ら作ったものを自ら販売するこ
う、究極の安心安全を添えてお客様においしい
丹波の味を提供しています。

生産者にとっても消費者にとってもすばらしいと
思えるシステムですが、一つだけ問題があります。
メンバーの多くが高齢者で、グループを引き継いで
いく後継者がいないということです。

消費動向がわかり、やりがいのあるこの事業を
続けていくために、丹波で野菜を作っている人の参
加をお待ちしております。一緒に、「おいしい丹波」
を消費者の皆様にお届けしましょう。



▲長田・篠山・丹波交流大バザール

後世に託された想いを 地域力に

おびえサイコー祭実行委員会
委員長 足立 稔

昨^{おびえさいこうじ}年秋の新聞報道により、江戸時代中期作とさ
れていた「大禪再興寺三如来坐像」が、平安
後期作と判明いたしました。この朗報を受け、「地域
の活性化につながれば…」と思い、11月16日(日)
に「おびえサイコー!祭」を開催いたしました。

当日は、心配されていた天候にも恵まれ、たくさ
んの方々にお越しいただき、命名どおり、まさにサイ
コー!な祭りとなりました。イベントも素晴らしいも
のでしたが、この祭りは、準限界集落と言われている
この村に残された底力というものを発見できた祭
りであったと思っています。

老人会、婦人会、消防団、子供会、各団体が一
丸となり、それが集落一つの大きな輪となり成功で
きたものと確信しております。

後世に託された想いを、今ここに地域力として発
揮できた事に感謝し、今後も大禪の三如来坐像を誇
りとして守り続けたいと思います。



▲津軽三味線の演奏に聴き入る参加者

市民の投稿



▲たんばりんぐ編集作業の様子

編集後記

丹波市政二期目がスタートしま
した。
議会だよりの広報委員も6名全
員が新しいメンバーとなりました。
議会だよりのを通して、みなさん
に議会のことを少しでもわかりや
すくお伝えできるよう、また関心
を持っていただけるよう努力して
まいりますので、よろしく願ひ
いたします。